

令和6年度総社市立新本小学校学校評価資料

(A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

新本小学校

様式【学校評価資料】

学校経営目標	具体的計画	令和6年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
【確かな学力】 ○学習意欲や思考力・表現力・読解力を高める。 ○基礎学力の定着を図る。	○一単位時間に5分、1日30分の協同学習を効果的に取り入れ、自分の考えをしっかりと語れる授業を行う。 ○自分の考えをもつ時間、書く時間、友達と交流する時間を設けて、自分の考えに自信をもった上で発表できるようにし、思考力・表現力の向上を図る。 ○授業の振り返りで視点を決めた内容を書く。 ○自主学習については、友達の自主学習ノートを掲示したり、学年だよりに掲載したりして、友達の取組を参考にできるような環境を作る。 ○朝学習や授業の時間に全学年で統一した形式の漢字と算数の単元別たしかめテストを実施する。(100点になるまで再テストをくり返す。学年の実態に応じて、ドリルパークやタブレットドリル等に実施形態を変えることも可。)	○「1日30分の協同学習を取り入れて、グループやクラスで発表する児童をふやすことができた」と回答した教職員が80%以上いる。 (職員アンケートⅠ-1) ○「考えをクラスやグループで伝え合うのは楽しい」と自己評価する児童の割合が80%以上いる。 (児童アンケートⅠ-2) ○「自分の考えを言葉で書くことができた」と自己評価する児童の割合が80%以上いる。 (児童アンケートⅠ-3) ○「自主学習にがんばって取り組んでいる(3年生以上)」と自己評価する児童の割合が90%以上いる。 (児童アンケートⅢ-2) ○漢字と算数の単元別たしかめテストの合格率90%	86%		○自主学習に取り組む際に「めあて」と「ふりかえり」を書くことを徹底したり、朝のスピーチで自分の自主学習について話したりすることで、自分が「自主学習をがんばっている」と感じることができている状況をつくる。また、自主学習の掲示や学年によっては通信等でお知らせも継続して行い、自分の自主学習の参考に使うことができる環境を整える。	84%		○中間期に挙げた改善策に引き続き取り組む。 ○自主学習では、朝や帰りの会での先生の話で努力を取り上げたり、取り組み内容に困っている児童にはおすすめのメニューを提示したりする。	・自己評価は適切である。 ・読書の時間をしっかりとってほしい。 ・読んだ本の数(量)で評価しているが、内容(質)についてはどうだろうか。文字からイメージする力、思いを言葉にする(感想文を書く)力も身につくように取り組んでほしい。 ・おすすめの本を読む児童がもう少し増えるようにしてほしい。
【確かな学力】 ○英語に親しみ、楽しく活動できるようにする。	○年間学年部で1回研究授業を実施する。(外部講師による指導を受ける。) ○3・4年生の児童が目的意識をもち楽しみながら学習に取り組めるよう、必然性のある「読むこと」「書くこと」の活動を単元構成の中に取り入れ、言語活動の充実を図っていく。 ○「話したい、使ってみよう」と思える場面を設定する。(英語放送や英語朝礼、学校全体でのEnglish dayや学年ごとのquestion weekなど)	○「英語の勉強は楽しい」と自己評価する児童の割合が90%以上いる。(児童アンケートⅠ-5) ○授業内で英語でコミュニケーションを図ろうとする力(活かす力)がついたと回答した教職員が80%以上いる。 (職員アンケートⅠ-2)	95%		○2学年を1人の教員が担当することで、系統性を意識した指導がしやすくなった。 ○今後も学年の実態に応じて、体を動かしたり、目的を達成するために書く活動を入れられたりして、楽しく英語の学習に取り組める環境を作る。	98%		○中間期に挙げた改善策に引き続き取り組む。 ○教員からキーフレーズを積極的に使ったり、帰りの会でキーフレーズを使えたかチェックしたりするなどして、児童への意識づけを強化する。	
【確かな学力】 ○読書の推進を図る。	○読書週間の取組や読書の記録カード、おすすめの本リストを活用して、本に親しむ児童を増やす。 ○毎週2冊は本を借りる。金曜日の朝学習を隔週で「読書タイム」にし、週末読書へとつなげていく。 ○親子読書の取り組みで保護者の読書への関心を継続させる。	○年間で1年～3年:100冊以上、4～6年:4000ページ以上到達する児童の割合が90%以上いる。(読書の記録)2段階の目標(1～3年:200冊以上、4～6年:6000ページ以上)を設けて読書への意欲付けと向上を図る。 ○「進んで読書に取り組んでいる」と自己評価する児童・「読書の記録が定着し、児童は進んで読書をしている」と自己評価する教職員が85%以上いる。 (児童Ⅲ-3・職員Ⅰ-4)	児:85% 職:100%	A	○上学年は、お互いの読書の記録がタブレット上で分かるようになっていて、自分のがんばりに繋げやすいので、今後も続ける。 ○暑さや雨の影響で外に出られない時などに、図書室に行ったり、せっしゅう文庫に行くように声かけをしたり、本に触れる機会が自然と増える取り組みを続けていく。 ○おすすめ本について、朝のスピーチで話す。	1～3年 72% 4～6年 100% (1月平均)	A	○中間期に挙げた改善策に引き続き取り組む。 ○2段階の目標設定は、有効である。低学年のうちから、読書に親しむことで、高学年での読書につながっている。	
【豊かな心】 ○他者のよさを認め合い、学校行事などに主体的に取り組む。	○生徒指導などあらゆる場面で「ほめて育てる」ことを重点にし、児童の自己肯定感を高める。 ○学校行事で児童の思いや願いを大切に企画にし、児童の自主性を育て、達成感を味わわせる。 ・代表委員会や集会・体育委員会を中心に月1回以上の縦割り班遊びなどの活動の充実を図り、活動の最後に「振り返り」の時間を設け、学年を超えた児童の仲間意識を育てる。 ・学級経営において、帰りの会で「良いこと探し」の時間を設け、お互いの良さを認め合える集団作りをする。 ・掃除ががんばり週間(年5回)に掃除を頑張っている児童をgood behaviorカードでほめる取組によって、継続して意欲を高める。	○「学校が楽しい」と回答する児童・保護者が90%以上いる。 (児童アンケートⅡ-1・保護者アンケートⅡ-1) ○「学校行事のめあてをもち、一生懸命にがんばっている」と回答する児童が90%以上いる。 (児童アンケートⅡ-2) ○「友達のよいところを見つけることができた」と回答する児童が90%以上いる。 (児童アンケートⅡ-3)	児:99% 保:94%		○発達段階に応じた変化のある「よいこと探し」をする。 ○朝運動を縦割り班でできる活動を取り入れることで、学年を超えたつながりを深める機会を作る。 ○オベレッタの練習のがんばりをgood behaviorカードを掲示して、がんばった実感をもつことができるようにする。さらに保護者に見ていただくことで、子どもたちのよいところに意識を向くことができるようにする。	児:96% 保:94%		○児童が心の面でも成長し、自分自身に対して厳しく評価しているのではないかと考える。学校全体としては、中間期に挙げた改善策に引き続き取り組む。	・自己評価は適切である。 ・全員が「楽しい」とアンケートに回答することは理想ではあるが、実際は難しいと思われる。子どもも保護者も学校も「よいところ」に目を向けて、育ててほしい。
【豊かな心】 ○特別支援教育の充実を図る。	○週1回の児童連絡会で、気になる児童について全職員で共通理解を図り、全員で迅速に対応しようという体制づくりをする。 ○ニーズに合った素早い連携を行い、管理職、生徒指導主事、養護教諭、担任等が一つのチームとして課題解決にあたることで、適切な指導につなげる。 ○教育相談日やあのおね週間の充実と児童や保護者とのコミュニケーションを大切に。(欠席1日目から連絡。3日目は家庭訪問)	○「子どもの話をしっかりと聞いている」と自己評価する保護者の割合が80%以上いる。 (保護者アンケートⅣ-1) ○特別支援教育に関する研修を年1回以上行う。 ○「児童や保護者とのコミュニケーションを大切にすることができた」と自己評価する職員の割合が80%以上いる。 (職員アンケートⅡ-6)	98%		○今後も現在の取り組みを継続する。	91%		○保護者も担任との懇談などを通して子どもの学校での様子を知り、子どもの話をより聞こうと意識して下さっているのではないかと考える。中間期に挙げた改善策に引き続き取り組む。	

学校経営目標	具体的計画	令和6年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
【健やかでたくましい体】 ○健康の維持や体力の向上を図る。	○新体力テストの結果を前年度県平均と比較し、課題のある項目の向上に重点を置きながら様々な運動に取り組むようにする。 ○体育の授業では、運動量を確保し、体力アップのための運動を継続して行う。 ○チャレンジランキングの種目例を紹介し、クラスでも積極的に取り組めるようにする。 ○休み時間は外で遊ぶことを奨励する。	○「体育の授業で体力づくりに取り組み、進んで運動している」と自己評価する児童の割合が80%以上いる。(児童アンケートⅡ-5) ○「1日に1回は、しっかり外で運動している」と自己評価する児童の割合が80%以上いる。(児童アンケートⅡ-6)	94%	A	○外でしっかり遊べるような手立てとして、各クラスの係活動などが主体で行うクラス遊びを充実させることが望ましい。(現段階では大半の学級がおこなっているが、さらに充実させていきたい。) ○主体的に体力作りに取り組めるように、チャレンジランキングで行われている運動内容を、朝運動で取りくんだり、委員会活動を通して全校に紹介したりして、各クラスでも積極的に取り組めるようにする。 ○朝の会などでも気軽に取り組みそうな「グーパー体操」などの紹介・実践。	99%	A	○中間期に挙げた改善策に引き続き取り組む。 ○チャレンジランキングでは、取り組みの成果を、賞状などを使ってしっかりと評価・称揚をしていく。	・自己評価は適切である。 ・時期的なことを考慮すると、後期の「早起き」が難しくなるのは予想できる。様々な実態があるので、「家庭の事情に合わせて」実態調査の目標設定を各家庭でもらってはどうか。
【健やかでたくましい体】 ○基本的な生活習慣の確立・定着を図る。	○しゃきっとカードを活用して生活習慣チェックを行い、望ましい生活習慣をつくる。 ○早起きの目標時刻を、登校時刻の1時間前までとする。 ○就寝時刻を、低学年(21時)・中学年(21時半)・高学年(22時)とする。 ただし、習い事等で遅くなるのが分かっているときは、家庭で相談して就寝時刻を決めるようにする。	○実態調査(しゃきっとカード)で早寝を70%以上の児童が達成する。 ○実態調査(しゃきっとカード)で早起きを80%以上の児童が達成する。 ○実態調査(しゃきっとカード)で朝ご飯を80%以上の児童が達成する。 ○「寝る時刻を決めて子どもに声掛けをしている。」と自己評価する保護者が80%以上いる。(保護者アンケートⅣ-3)	69%	B	○しゃきっとカードの結果から、学年の実態に合わせて、早寝・早起きの必要性について折に触れて指導していく必要がある。 ○参観日や学級懇談などを利用して、クラスの生活習慣の実態などを保護者に伝える機会を設け、協力を呼びかけていく必要がある。 ○学校保健委員会の持ち方についても検討が必要である。講演を聴いて終わりになっているので、そこからステップアップがあるようにもっていかねばよい。	74%	B	○早寝については、保護者が意識して声を掛けてくださっていることがアンケートから分かった。しかし、児童の実態の改善にはつながっていないようなので、引き続き早寝・早起きの必要性について指導していく。 ○来年度もしゃきっと習慣を定期的に設け、「しゃきっとカード」で実態をつかみ、必要であれば個別に対応していくことで、改善を図りたい。	
【開かれた学校】 ○地域の人材・学習素材を活用し、情報発信する。	○計画的に地域の人材・学習素材を活用する。 【総社を愛す子供】 ○学校の教育活動を、各種の便りや学校ホームページ等を充実させて、積極的に発信する。	○「地域の人材・学習素材を活用した学習指導を実践した。(今後の予定も含む)」と自己評価する教員が80%以上いる。(教員アンケートⅣ-1) ○「学校は、各種の便りやホームページなどをとおして、積極的に情報発信をしている。」が80%以上になる。(保護者アンケートⅠ-4)	78%	B	○引き続き、計画的に地域の人材・学習素材を有効に活用する。そのために、それぞれの教材が十分教材化できているかを教員が検討し、主体的に取り組めるよりよい活動にしていく。 ○引き続き、学校の教育活動を、各種の便りや学校ホームページ等を充実させて、積極的に発信する。	100%	A	○計画的に地域の人材・学習素材を有効に活用する。それぞれの教材が児童の主体的な活動になっているかを教員が十分検討し、次年度に生かせるようにする。 ○引き続き、学校の教育活動を、各種の便りや学校ホームページ等を充実させて、積極的に発信する。	・自己評価は適切である。 ・地域へ配付する「学校だより」は、カラーで精選されたものになり、見やすくなった。
【総中ブロック】 「ま」 まず行動	○「褒めて育てる」ことを重視し、学校でちょボラやピア・サポート活動をする児童を、教職員が積極的に認め、励ます。 ○児童の頑張っている様子を、学校だよりや学年だより、学級懇談、Good Behaviorカード等を通して、積極的に家庭に伝える。	○児童・保護者・職員アンケートの「よい行いを進んでいる(ちょボラやピアサポートなど)」が、90%以上になる。	児:92% 保:67% 職:100%	C	○Good Behaviorカードを掲示することで、児童の意識が高まるようにする。 ○保護者の数値が低いことは、保護者がよく見てくださっている証拠だと考えられるので、引き続き、児童の頑張っている様子を、学校だよりや学年だより、学級懇談、Good Behaviorカード等を通して、積極的に家庭に伝える。	児:96% 保:65% 職:100%	C	○引き続き、児童の頑張っている様子を、学校だよりや学年だより、学級懇談、Good Behaviorカード等を通して、積極的に家庭に伝える。	・自己評価は適切である。 ・小学校の間に「あいさつ」を身につけていることで、卒業した子どもも気持ちよくあいさつできている。 ・保護者が「(子ども)があいさつできていない」と感じているのは、「おはよう」とか「ありがとう」といった身近なあいさつが家庭でできていないという場面を言っているのかもかもしれない。
【総中ブロック】 「さ」 さわやか あいさつ	○新本小代表委員会や高学年での話し合いをもとに、あいさつ運動に取り組む。 ○地域の方に会ったときには進んであいさつをしたり、お世話になった時にはお礼の手紙を書いたりする。 ○「まさきプラン」による総社中学校区共通の連携したあいさつ運動の実践を行う。 【総社を愛す子供】【礼儀正しい子供】	○児童・保護者・職員アンケートの「(子どもは)自分から進んであいさつをしている」が、90%以上になる。	児:95% 保:90% 職:60%	C	○少しの変化でも、積極的にほめて育てる指導を進めたことで、児童の意識が高まったと考えられる。さらによくしていこうという声かけを行っていく。 【総社を愛する子供】【礼儀正しい子供】	児:100% 保:83% 職:100%	B	○引き続き、学校ではよいあいさつができていた様子ほめたりさらにできるように声かけをしたりして、意識を高める。また、2月の学級懇談で4月より良くなったことを保護者に伝え、家庭でも声かけをしていただくようお願いする。 【総社を愛する子供】【礼儀正しい子供】	
【総中ブロック】 「き」 協力する心	○情報交換会やケース会議での児童の様子をもとに、支援の方法を検討し、組織的に児童支援や学級づくりに関わる。 ○自分と違うことで排除するのではなく、違いを認めて協力する態度を身につけられるように指導する。 ○学級遊びや縦割り班掃除・縦割り班遊びでの振り返りの時間を設けることで、学年を超えた仲間との活動のよさに気づき、児童の仲間意識を育てる。 【心優しい子供】	○児童・保護者・職員アンケートの「いじめや仲間はずれをしないで、友達と力を合わせる」が90%以上になる。 ○児童・職員アンケートの「他の学年の人と活動することは楽しい(そうじ・縦割り班遊び)」が80%以上になる。	児:96% 保:96% 職:100%	A	○週1回の児童連絡会をはじめ、情報交換を密にして取り組んできたが、油断せず、小さいことでも見逃さないよう児童の様子を観察して、よりよい人間関係づくりができるようにする。 ○学級遊びや縦割り班掃除・縦割り班遊びでの振り返りを引き続き充実させることで、児童の仲間意識を育てる。 【心優しい子供】	児:99% 保:94% 職:100%	A	○引き続き、週1回の児童連絡会や情報交換を密にして、小さいことでも見逃さないよう児童の様子を観察して、よりよい人間関係づくりができるようにする。 ○学級遊びや縦割り班掃除・縦割り班遊びでの振り返りを引き続き充実させることで、児童の仲間意識を育てる。 【心優しい子供】	

※下線部・・・「いじめ防止基本方針に基づく取組」に関する項目